

奨励賞

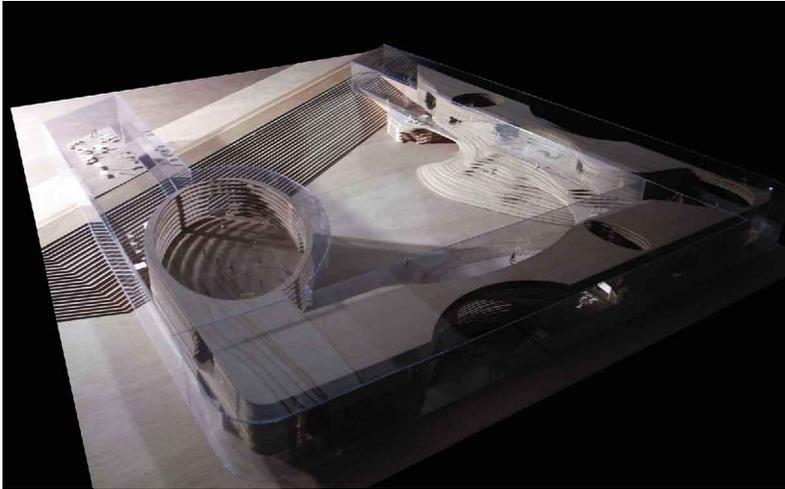


層が呼吸する小学校

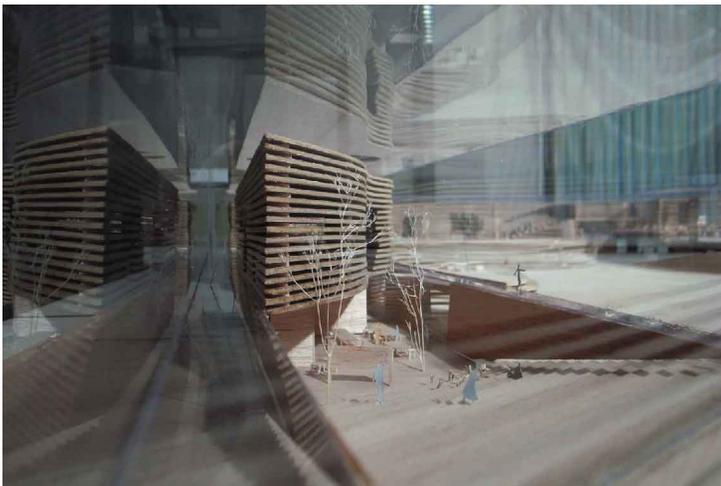
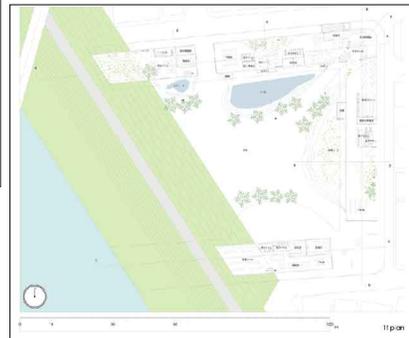
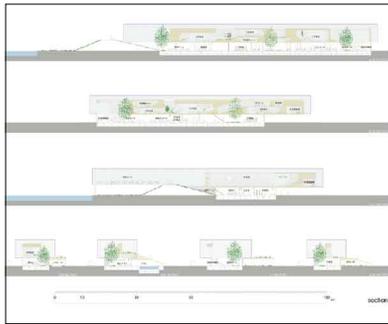
自然環境としての小学校の提案

為季 仁 (ためすえ じん)

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



今日、子どもたちを取り巻く環境において大きな変化が起きている。それは、パソコン教育の早期化、ゆとり教育見直しによる総合学習時間の減少、都市化による緑地の減少などによって、自然との触れ合いや体験を通じての感受性や社会性が育まれにくい環境にあり、健やかな成長への影響が懸念されている。そこで、本計画では、子どもたちが学校生活を送る中で、豊かな人間性や価値観の形成が育めることを目的とした小学校を提案するものである。本計画では、自然を彷彿させるべく、地層をモチーフにデザインを行い自然と建築を一体化させる。地層によるデザインは、有機的な空間構成、周辺地域に対して自然風景として存在することで都市の中に新たな環境を生み出す。



【講評】インターネットの普及により答えが簡単に手に入る現代は、かつては当たり前であった「触れながら学ぶ」ことが忘れ去られようとしている。作者は、この時代の流れに危機感を覚え「体験」をキーワードにした小学校を計画した。

河川に対して大きく開いたコの字形のレイアウトは校庭を水辺まで連続させ、地層の中の空洞をイメージした室内空間は、子どもたちに自然との共生を感じさせる。

15cm厚さのスラブを、同じ15cmのクリアランスを取りながら積層させ、その中をくり抜いて造る空間構成がおもしろい。積層させたスラブの間に出来たルーバー状の隙間は、半透明な壁となり建物全体を緩やかに繋いでいる。

「スラブの材質はコンクリートではない」と作者は言う。では、構造的にどんな素材が可能だろうか、勝手に思いを巡らせてしまう非常に興味深い作品である。丁寧に作り上げた模型も評価したい。(審査員：飯嶋茂信)